

interview
3

聖和学院中学校・高等学校

地域の防災・減災プロジェクト

昨年2月に池子2丁目で起きた崖崩れをきっかけに、防災・減災に関心を持ったという市内在住で中学校3年生の入江奈都美さんと高校2年生の久保田莉央さん。「災害で命を落とす人が1人でも減ってほしい」、「災害がまだ自分事になっていない人に、ぜひ防災・減災の大切さを伝えたい」と話します。

プロジェクトでは、内閣府の職員に話を聞くなどしながら学びを深め、昨年8月には、オンラインイベントで防災・減災について自分たちができることなどを伝えました。約40人の参加がありましたが、参加してもらいたかった市内の中高生の参加者が少ないなど、反省点も浮き彫りになりました。

また、久木小学校区住民自治協議会の会議に出向き、地域住民との対話もしています。「地域と関わることで、自分が住んでいる地域にこれまで以上に意識が向くようになりました」と久保田さんは振り返ります。

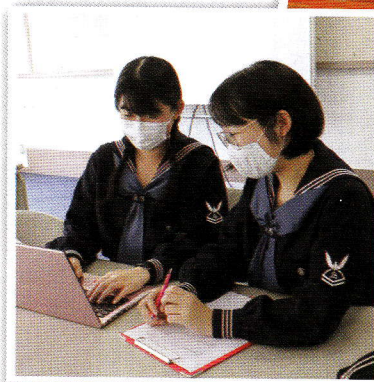
子どもに分かりやすく防災を伝えようと防災絵本づくりに取り組む傍ら、幅広い世代に防災・減災を考えてもらえるよう、今後の活動についてもアイデアが飛び交います。

地域の防災・減災プロジェクト

災害への備えや災害時取るべき行動、避難所のことなど防災や減災について考え、発信するプロジェクト。4月から始まった「オンラインわくわく探究活動」の一つとして、中学2年生から高校3年生の有志で発足した。現在、16人の生徒が活動している。

「若い人向けにSNSを活用して情報発信ができないか」と久保田さん。入江さんも、「例えば、沼間は坂が多く避難所まで遠いので、高齢者が避難するには大変ではと感じています。避難方法は住む地域によって違うと思うので、地域の人たちと一緒にもっと防災・減災について考えていきたい」と意気込みます。

▶久木住民自治協議会での発表の様子



◀久保田さん(左)と入江さん(右)

こんな活動も!

聖和学院中学校・高等学校

ボランティア生徒による久木トンネル清掃

毎日通っている通学路で、地域のために貢献できることをしようと、15年前から始まった久木トンネルの清掃。年間3回、30人程度の有志が排気ガスで汚れたトンネルの壁をきれいに拭き上げます。「黒かった壁が真っ白になると気持ちが良いです」と校内でも人気の活動です。



地域の防災・減災プロジェクトのメンバー